

s a s a k u s a s

ササク

サス

TALK!

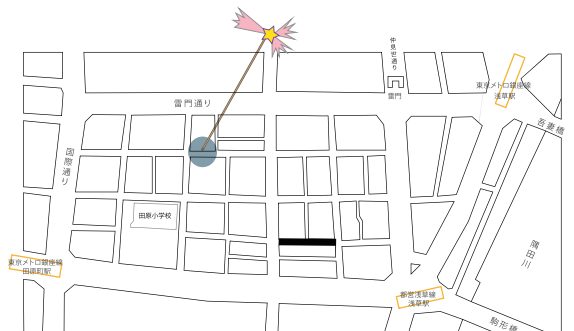
サ サ ク サ ス 街 角 ト ー ク

2010年、GTS（芸大・台東・墨田）アートプロジェクトのなか、雷門1丁目・2丁目にはじまった『ササクサス』。『ササクサス』を立ち上げた教員や学生が、3年目の今年、街の方々と共にあらためてお話しします。なぜここに『ササクサス』が生まれたのか、そして今年は何が起こるのか、どのように見ていくのか。<街角トーク>にぜひおこしてください。

2012年10月23日（火）18：00～19：45
東京都台東区雷門1丁目14
ローレルバンクマシン株式会社駐車場 {下平酒店前}

雨天別会場にて開催（当日告知）

- 出演 日比野克彦（東京藝術大学先端芸術表現科教授）
北澤潤（東京藝術大学先端芸術表現科博士課程在籍）
ほかササクサス参加作家
- ゲスト 下平博美さん（下平酒店）
- 進行 安田暁（東京藝術大学先端芸術表現科非常勤講師）



主催 GTS(芸大・台東・墨田) 観光アートプロジェクト実行委員会
 協力 ローレルバンクマシン株式会社 下平酒店 雷門地区東部町会・中部町会・西部町会・田原町会
 お問い合わせ GTS 観光アートプロジェクト事務局 03-3843-8441

GTS 観光アートプロジェクト 隅田川 Art Bridge 2012 「GTS AWARD」 ササクサスエリア 関連企画



サ サ ク サ ス 街 角 ト ー ク

「ササクサス」という、はっきりとしたかたちを持たない、出来事の集積、多発偶発的活動の総称、そんなプロジェクトが雷門1丁目・2丁目で開催されて、3年目。今までお世話になった方々と共に、「ササクサス」について、そして街で活動する、ということについて、実際の舞台となっている街の中で、その場所で、話を展開します。

「ササクサス」とは何なのか？

それをあらためて話す場、としてこのトークは企画されます。街の方々に向かって、その成り立ちや動きについて、あらためて紹介しなおします。それは、ひとつのアートプロジェクトのあり方を、リアルに浮かび上がらせるものになるはず。 「ササクサス」では、作家たちによる、街へのあいさつということをしつづけにいろいろなことが動き始めました。雷門1丁目・2丁目に、「ササクサス」がどのように関わり、作家たちがどのように活動を街に開こうとするか。それを話していく中から、アートプロジェクトという「こと」を考えていきます。

○ 「ササクサス街角トーク」で、ひらかれるもの。 ○

① なぜ、「ササクサス」が生まれ、はじめたのか。

アーティスト・東京芸術大学教授である日比野克彦がこの街と出会い「ササクサス」がはじまりました。3年目の今年、あらためて、街の方々と共に、そのきっかけについてお話しします。

② どのような作家が、「ササクサス」をつくっていったのか。

2010年、1年目の「ササクサス」がはじまる時、私たちは街を歩き回り、考えを巡らせながらかたちをさぐっていきました。その中心にいた一人、北澤潤の「ササクサス」以外での作家としての活動を紹介します。それをもとに、美術館の外で、絵や彫刻とは全く違う、けれども同じ「作品」を作ろうとすることについて考えます。

③ 「ササクサス」をやることで、なにをしたいのか。

「ササクサス」が、何を目指してきたか。そして「ササクサス」に参加してきた学生・作家たちが、どんな目標をもって関わってきたのか。それを、様々な疑問や質問にお答えしながら、お話ししていきます。

④ 今年、どんなことが起こるのか。

3年目の今年も、いろいろな作家が参加します。どんな学生が・作家が、どんなことをしようとしているのか、この場を借りて紹介します。

『ササクサス』は、「GTS(藝大・台東・墨田)観光アートプロジェクト」における台東区雷門1丁目・2丁目を舞台とした継続的活動です。『ササクサス』という名前は1960年代にNYを中心に起こった反芸術活動「フルクサス」に起因しています。「ASAKUSA」を「S」ではさんで『SASAKUSAS』と、東京芸術大学先端芸術表現専攻教授日比野克彦が名付けました。「S」の形には浅草を回遊する巡るというイメージが込められています。『ササクサス』では、過去二年間、地域の皆様のご協力をいただきながら、少しずつかたちを変えながら活動してきました。今年度の『ササクサス』には、「GTSアワード」の一つのエリアとして、学内公募から選ばれた作家、OBやOGを含め様々な学生たちが集まり、浅草神社などで行われる他の活動や展示とも連携しながら、あらたな活動をしていきます。街の中で起こったいつもと違うこと、10月11日にそんなことに直面したら、それが『ササクサス』なのです。3年目の『ササクサス』では、「ひらく」ということをキーワードに行なっていきます。活動をひらくこと、制作をひらくこと、芸術家一人ひとりがこの地域と向き合っていくものアクションをおこしていくことで、いろいろなものが「ひらく」。それをめざしています。